
雨はお嫌い？

きこりん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雨はお嫌い？

【Nコード】

N5941Z

【作者名】

きこりん

【あらすじ】

雨が降った。一般的に梅雨といわれる時期だからしょうがない。ところで、あなたは雨は好き？ - - - 時期はずれているけれど、雨に対する色んな人の気持ちを描いてみました。一日の出来事を徒然と書いていきますので…。

登場人物紹介（前書き）

はじめまして きこりん です!!
これが初投稿作品となります

まだまだ拙い文章ですので、アドバイスなどいただけると嬉しいで
す。

それでは、よろしくお願いします。

登場人物紹介

雨が降った。一般的に梅雨と呼ばれる時期だからしょうがない。
ところで、あなたは雨の日は好きですか？

時期はずれているけれど、雨に対する色んな視点を描いてみた作品です。

おもな登場人物

【シーン：学校】

木本和哉	高1	男	このシーンでは彼中心に話が進む
志田幸平	高1	男	能天気
片木優香	高1	女	ショートヘアのさばさばした女の子
木月先輩	高2	男	和哉の部活の先輩

【シーン：少女】

黒髪の少女 名前未定、でもそんなに深い意味は無いです。

なお、彼らの名前は実在の人物とは一切関係ありません。
それでは、きこりん初の作品、のんびりですが進めて行こうと思います…。

【第一話】雨の日は歩き？（前書き）

はい！記念すべき（？）第一話です
今回は【シーン：学校】ですね。

【第一話】雨の日は歩き？

しっとりとした朝だった。

朝日もいつもより少なく、薄暗い。

「雨か。」

まだ温もりの残る布団から起き上がりつつ、今日は歩きだな、と思った。

晴れている日ならば、自転車で時間をかけずに登校できるのだが。しかし雨の中歩くのも、不思議と嫌いになれない。

「早く支度しなさい。」

という、お母さんの声。かすかに香るお味噌の匂い。

外が夜のように薄暗くても、ちゃんと朝の時間は進んでいた。

「おっはよー。チャリで来たからびしょびしょだよお」

クラス一能天気（だと思う）の志田幸平が髪から水滴を滴らせ、屈託のない笑顔でいつものように話しかけてきた。

雨の中、無理やり自転車チャリに乗ってくると、こうなる。

すると、服という服が雨を吸って、重い。あまり気持ちのいいもの

ではない。

これで一日過ごすのはさすがにきついだろう。

それでも幸平は笑顔。そういう奴だ。

幸平の笑顔は薄暗い雨の日でも、明るい。

教室は三階。湿度は高い。換気扇のかすかな音を聞きながら窓の外を眺めていると

不意に、目の前が明るくなる。

ドゴン

他のクラスからも、周りからも女子のキャーッという声が上がる。

雷が、近くに落ちたみたいだ。

朝から盛大に雷を鳴らすなんて、空も忙しいな。
なんて、思っている自分が少しおかしく思える。
だが、雷は嫌いじゃない。薄暗い空に白い光の筋が入るのが見える
と、わくわくする。

このまま、一斉下校にならないかな。

そんなクラスメートの声とともに

木本和哉は始業のベルを聞いた。

【第一話】雨の日は歩き？（後書き）

一話目から風景描写に苦戦です><；

人物像も固まらないし…

あ、木本君の名前、最後の最後に出ましたね…

とりあえず、続きは書いていきますので！

アドバイスなどありましたら遠慮なくお願いします> (´ー´) <

【第二話】雨の日の『世界』？（前書き）

【シーン：少女】です。短いです……
ではどうぞ

【第二話】雨の日の『世界』？

雨。五月雨。梅雨。

どれもいい響きだ。

なんたつてしつとりと薄暗い、こんな幻想的な景色は雨の日以外には見られない。

ああ、今日もいい日だ…

部屋の窓からしとしとと雨の降りしきる外を眺めながら、黒髪の少女は思う。

彼女の膝の上には髪と同じく黒い毛の猫。丸まってのんびりとした様子だ。

「ねえ、こういう日こそ外に出てみたいと思わない？」

にゃあ、と猫が鳴く。少女に答えるように。イエスかノーかは分からないが。

少女も外を眺めたまま独り言のように続けた。

「どうして世間一般とやらでは、雨の日は憂鬱だと決め込んでいるのかしら。

雨の日だからこそいつもと違う『世界』が見えるのに、ね」

うふふ、と微笑む。膝の上では相変わらず猫がくつろいでいた。
少女はそして思い立ったようにそつと猫を床におろし、音も無く
しかし楽しそうに部屋を出て行った。

【第二話】雨の日の『世界』？（後書き）

自分でも何が書きたいのか分からない。

はてさて、このお話はどこに向かっているのでしょうか…？

迷走して、登場人物の気持ちだけ述べて、

終わりそうな予感です。（寧ろそうしようかな）

アドバイス、メッセージ、お待ちしてます>（―――）<

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5941z/>

雨はお嫌い？

2011年12月20日22時48分発行